

エスティの 国際交流コーナー



(ハ ヌ カ)

皆さん、明けましておめでとうございます！お正月と冬休みを楽しく過ごせましたか。

新年の最初のコラムなのですが、12月末に書いたものです。それで、12月のイベントのお話をしたいと思います。

12月13日に去年に続きまして八百津町ファミリーセンターで「ハヌカ料理教室」を行いました。「ハヌカ」というイスラエルの祭りについて去年の年末のコラムにも述べましたが、今回はもう少し詳しくこの祭りの起源について説明したいと思います。

2200年前、現在のイスラエルの土地に住んでいたユダヤ民族はギリシア帝国によって占領されました。ギリシア帝国はユダヤ人だけでなく、多くの民族を支配していました。その支配を強めるために、各民族に自分の宗教や文化の行事を禁じ、ギリシア文化を押し付けました。ユダヤ人たちはユダヤ教の礼拝を禁止され、最も大切な聖地であったエルサレムの神殿が汚され、ギリシアの神殿に変えられました。ユダヤ人はその命令に従わずに、内密に自分の文化を守っていました。ヘブライ語の勉強を続けたり、祭りを祝ったりしていたところを見つけられたユダヤ人がギリシア軍に厳しく罰されました。



結局、紀元前167年にユダヤ人たちが反乱を起こしました。この反乱の激しい戦いで、神殿を解放して、全国でギリシア軍を圧倒しました。ついに、独立ユダヤ王国を作ることができました。ハヌカの祭りで祝うのは神殿を奪回して、清めて、新たに礼拝できるようになったことです。「ハヌカ」の名前は「落成式」あるいは「新築祝い」という意味があります。

そして、解放された神殿ではある奇跡が起こりました。神殿を清めて礼拝を新たに始めるために、火を付けなければなりません。その時代、オリーブオイルの燭台(しょくだい)を使いました。神殿を照らすために特別なオイルが必要でした。しかし、ギリシア人に汚された神殿では、使えるオイルが小さな瓶しか残っていなかったのです。新しいオイルを持ってくるまで八日間かかりますが、残ったピンは一日分でしたので、ユダヤ人はとても困りました。しかし、火を点けたら、不思議にこのオイルが八日間にも足りました。それをハヌカ奇跡といいます。その奇跡を記念するために現在でもハヌカの八日間の毎日「ハヌキヤ」という八つの枝があるろうそく立てのろうそくに火をつけます。そうしてオイル(油)をいっぱい使った料理を食べます。

八百津のハヌカでもそういう料理を作りました。ドーナツみたいな甘いスフガニヤとポテトやチーズのパンケーキのレビバを明るい雰囲気ですべて楽しみました。

12月にご参加できなかった方は、1月末にも料理教室を行いますので、是非お越しください。

1月31日(日)午後1時からロシア料理教室を開始します。参加費は500円で、興味のある方は1月25日までに八百津町役場地域産業課にお申し込みください。

今年もよろしくお願いします！